

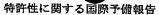
特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

PCT

	,,,,,,	
出願人又は代理人 の 告類記号 03-074-PCT	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/15576	国際出願日 (日.月.年), 05.12.2003	優先日 (日.月.年) 05.12.2002
国際特許分類 (IPC) Int. C1 ⁷ /08, 19/10, 43/00 //	A61K31/216, 31/737, 3 C08B37/00	1/78, 35/80, A61P19
出願人(氏名又は名称)		
タカラバイ	オ株式会社	

国際特許分類 (IPC) Int. Cl' A61K31/2 /08, 19/10, 43/00 // C08B37/0	16, 31/737, 31/78, 35/80, A61P19 0
出願人(氏名又は名称) タカラパイオ株式会社	
1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査 法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付す	機関で作成された国際予備審査報告である。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で	6 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。 a 附属告類は全部でページであ	გ.
四次57人は四回の角線(FCI規則70.16及(はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範 「実施細則第607号参照) における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの
b 電子媒体は全部で 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュー ブルを含む。(実施細則第802号参照)	タ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテー
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。 X 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎 第 II 欄 優先権 第 II 欄 優先権 第 II 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用豆	「能性についての国際予備審査報告の不作成 進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付
国際予備審査の間求告を受理した日 22.03.2004	国際予備審査報告を作成した日 09.07.2004
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区復が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 4P 3230 田名部 拓也 電話番号 03-3581-1101 内線 6609
1 h	



国際出願番号 PCT/IP03/15576

第 I 欄 報告の基礎			
水・水 秋日の基礎			
1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、	国際出願の言語を基礎とした。		
 □ この報告は、	礎とした。		
2. この報告は下記の出願審類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出され た差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)			
X 出願時の国際出願書類			
明細書 第 ページ、出 第 ページ*、 第 ページ*、	願時に提出されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの		
	願時に提出されたもの		
第	CT19条の規定に基づき補正されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの		
図面 第 ページ/図、出 第 ページ/図*、 第 ページ/図*、	顔時に提出されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの		
配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充欄を参照すること。			
3. 補正により、下記の曹類が削除された。	,		
明細告請求の範囲第図面	ページ 項 ページ/図		
□ 配列表(具体的に記載すること) □ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載する、			
えてされたものと認められるので、その補正がされた	すされかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超 なかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c))		
□ 明細書 第 □ 請求の範囲 第 □ 図面 第 □ 配列表(具体的に配載すること)			
配列表に関連するテーブル(具体的に記載するこ			
* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入さ	れることがある。		

に関する部分

様式PCT/	I PEAZAO	(成代なな) C	(2004年1日)

|X| すべての部分

請求の範囲

したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。



国際出願番号 PCT/JP03/15576

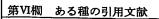
新りて 新規性、運歩性又は産業 それを裏付ける文献及び 1. 見解	上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2)) に定める見解、 説明	
新規性(N)	請求の範囲 	有 無
進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲 <u>1-11</u>	有 無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 <u>1-11</u> 請求の範囲	有 無
文献 2) JP2002-22638 文献 3) JP6-22728 A 文献 4) JP 10-53531 文献 5) JP 3-287538 文献 6) JP 7-101871 文献 7) JP 11-502235 文献 8) 2000-344672	」(マルハ株式会社)1995.04.25 80 A (マルホ株式会社)2002.08.14	

[1]請求の範囲1-11に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1-7により新規性を有さない。

文献1には、コンドロイチン硫酸ナトリウムが 骨強化・骨粗鬆症に有用である 旨記載されている。 してみると、本願請求項1-9に記載された発明は、新規性を有しない。

文献2には、硫酸化多糖体がマトリックスメタロプロテアーゼ関連疾患に有用である旨記載されており、該関連疾患とは、軟骨疾患等の種々の疾患であるとされて いる。
してみると、本願請求項1-9に記載された発明は、新規性を有しない。

(補充欄へ続く。)



1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 ————————————————————————————————————	公知日 (日.月.年)	出願日 (日.月.年)	優先日(有効な優先権の主張) (日.月.年)
WO 02/098449 A1 「EX।	12. 12. 2002	03. 06. 2002	01. 06. 2001
JP 2003-26597 A	29. 01. 2003	11. 07. 2001	·
JP 2004-2375 A 「EX」	08. 01. 2004	09. 04. 2003	10. 04. 2002

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付	書面による開示以外の開示に言及している
•	(日.月.年)	



いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

文献3には、ペクチン酸カルシウムが骨強度増強作用を有する旨記載されているから、本願請求項1-9に記載された発明は、新規性を有しない。

文献4には、請求項7に、ポリアクリル酸がリウマチ性疾患に有用である旨記載されているから、本願請求項1-9に記載された発明は、新規性を有しない。

文献5には、ポリアクリル酸が歯周組織再生促進に有用である旨記載されているから、本願請求項1-9に記載された発明は、新規性を有しない。

文献6には、種々の海藻抽出物が関節の治療剤として有用である旨記載されているから、本願請求項10,11に記載された発明は、新規性を有しない。

文献7には、ジクテオテール由来の抽出物が、骨および軟骨の組織損傷の治療に有用である旨記載されており、該抽出物は、褐藻類等から得られるものであるとされている。してみると、本願請求項10,11に記載された発明は、新規性を有しない。

[2] 請求の範囲1-9に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献8-9により進歩性を有さない。

文献8には、タンニン化合物がマトリックスメタロプロテアーゼ活性調節不能に起因する難治性疾患に有用である旨記載されており、該疾患とは、変形性関節症、骨疾患等であるとされている。

文献8には、クロロゲン酸の開示はない。しかし、さらに、文献9には、クロロゲン酸と化学構造上類似するカフェー酸が、軟骨保護剤として有用である旨記載されている。

してみると、タンニン化合物であるクロロゲン酸を、変形性関節症、骨疾患等に適用することは、当業者であれば容易に想到し得たものである。